

ゆるゆるも

第拾壹卷

第六號

フレール會

第拾壹卷第六號目次

○ 今月二十一日

○ 幼稚園に關する諸問題(三)

佐々木吉三郎

△ 幼稚園の種類

○ 招かれし家庭のいろゝ

河井道子

○ 子供の殘酷性

寺田精一

○ 米國幼稚園教育の現状

石原きく子

○ 家庭叢話(續)

光藤ふで

○ 保姆のすゝめ

後藤りん

○ 子供の自重心

倉橋惣三

フレイベル會規則

第一條 本會ハ幼児保育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハフレイベル會ト稱シ東京ニ置ク

第三條 會員タルントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼児保

育ニ篤志ナルモノニシテ會員ノ紹介ヲ經ベシ

第四條 會員ハ本會ノ經費トシテ一ヶ月金拾錢ヲ贈出スベシ

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルモノ

ハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルベシ

第六條 本會ノ目的ヲ達センガ爲ニ左ノ事業ヲ行フ

一 總會 毎年四月廿一日之ヲ開キ保育ニ關スル演説、談話、保

育參考品ハ會長ノ成績物展覽會務ノ報告ヲ選舉等チナス

一 但シ會日ハ會長ノ意見ニヨリ之ヲ變更スルコトアルベシ

一 常會 毎年二月、六月、十月、十二月ノ第一土曜日之ヲ開キ

一 組合會 會員中特ニ或ル事項ヲ研究セントスルモノヲ以テ組

織シス

一 但シ別ニ組合規約ヲ定メテ會長ノ承認ヲ經ルモノトス

一 雜誌發行 毎月一回雜誌ヲ刊行シテ之ヲ會員ニ配布ス

一 前項ノ外本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

第七條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 一人 會務ヲ總理ス

幹事 若干人 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス

評議員 若干人 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス

第八條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス

第九條 主幹、幹事、評議員ハ會長ノ特選トス

第十條 本會ハ必要ニ應ジ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ルルコト

アルベシ

第十一條 此規則ハ會員三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變

更スルコトヲ得ス

購讀の申込

(振替口座東京
一七二六六番)

本誌を購讀なされたい方は會費一ヶ月金十錢の割合で一ヶ年分をな

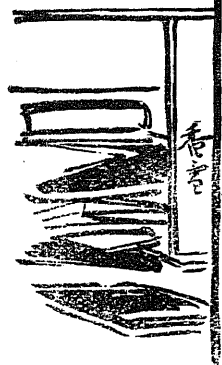
とめて振替貯金へ御拂込下されば直に雜誌を發送致します。

◎ 一冊郵税共金拾一錢

◎ 六冊前金郵税共六拾錢

◎ 郵券代用一割増

拾二冊同金壹圓貳拾錢



第十一卷第六號

今月二十一日

今月二十一日はフレーベル先生の五十九年忌にあたる。其の年四月二十一日第七十回の誕辰をリーベンスタインに祝して、盛大なる古稀の壽筵を張つた後、間もなくして此の終焉となつたのである。吾人は今更先生の教育上の功蹟を繰り返へすまでもないことであるが、巖々の此の忌日に當つて、當時を偲んで遺憾に思ふ二つの感想がある。一つは全くの私事であるが、先生を助けて其の生涯を完からしめた賢夫人ウエルヘルミナが、十一年前既に他界の人となつて先生臨終の枕邊に居なかつたことである。之れは老いたる先生の爲に何ぼうか物足りなさのことであつたろうと思ふ。併し之れは人の天命である。如何ともすることは出来ないが、もう一つの恨事は吾等が今に思ふても實に遺憾にたえぬことである。それは他でもない。千八百五十一年に普魯西政府から發布せられた幼稚園禁止令が、此の時未だ解除せられずに居たことである。先生の幼稚

園事業に對する確信は、遠き將來の隆盛を確信して疑はず、此の位の蹉跌を以て動くものではなかつたに相違ないが、それにしても我が畢生の事業が、其の本國に於てかゝる有餘にあるを見ながら近かねばならぬ臨終の心は、何とも察し様ないのである。禁止令が出で、から、先生及び同志の人々は随分苦心して其の解除につとめた。先生は言論を以てする爲に機關雜誌まで發行せられたが、それも又禁止せられた。先生は己むを得ず亞米利加の新天地へ移つて其の畢生の事業を完ふしようとも計畫せられた程であつた。七十近い此の老先生が、事業の爲には遙々亞米利加まで渡られようとする。其の熱心に敬服すると共に其の苦衷やどんなであつたろう。先生死後十四年を経て、此の禁止は漸く解除せられたが、それは先生の耳に告げ目に見せて安心させることの出来ることではなかつた。

併し、之れは吾等の情である。先生の將來を期し

て疑はれなかつた事業の完成は、今に於て、其の確信の空しからぬことを示して居る。尙之れから將來に於て、益々其の氣運を進めようとして居る。先生に先だつて逝いた夫人ウキルヘルミナの内助の功も決して空のものではなかつた。此の世の失敗を以て終つたらしかつた先生の計畫も決して空のものではなかつた。

吾々は吾々の日々の仕事の遅々として結果のあがり難いのを悲しんではならぬ。幼稚園教育が他の教育に對して花々しい盛んなる位置にないことを嘆じてはならぬ。フレーベル先生ですら思ふ様には成功しなかつた。吾々はたゞ先生の不休の熱心と奮闘を學べばいい。ウキルヘルミナの隠れたる至誠と忠實とを學べばいい。シユワイナンの邑にある先生の墓石は苔古りても、其碑銘は常に新らしい警めを吾等に與へるではないか。

「來れよ、吾等をして兒童と共に活かしめよ」

幼稚園に關する諸問題(二)

○幼稚園の種類

佐々木吉三郎(述)

幼稚園は、一定の時期の幼児を保育するだけの仕事をする所であり、その仕事たるや、もとより簡單であつた、仕事の性質の上から幼稚園の種類を擧げる必要はなからうと思ひますが、幼稚園を計營する人の異なるに従つて區別をする事は色々に出来ると思ひます。今、其れを大體六通りばかりに區別してお話して見やうと思ひます。

△第一 家庭幼稚園 (Familiengarten) 之れは、殆ど、二三の父兄が相談して、或る一家族に幼児を托すると云つたやうなので、極めて小仕掛けなやり方でありますが、而し、よく、家庭の事情から兒童の性質採迄解つて居る其所近所の兒童を集めて、家庭的に世話が出来ると云ふ點は、一つの長所であると思ひます。缺點としては、保母に

當る人は、専門家でなくて、どの家かの母親とか或はお嬢さんとかの一二人の人が其の仕事に従事するのでありますから、幼児の指導方法に就ては、あまり確りした研究が出来て居ないといふ點であると思ひます。

△第二 私立幼稚園 (Privatkinder Garten) 前にお話した家庭幼稚園と云へども、公立でない以上は、私立であるのに相違ないのであります。此所に、更に私立といふのを擧げるのは、分類上稍明瞭を缺くの嫌ひがありますが、暫く、彼の國で、名付けた儘を踏襲して、お話する事に致しませうそれで、何所が家庭幼稚園と違ふかと云ふと、尙一層大仕掛けで、稍學校らしい形を備へるといふ點であります。まづ、日本の今日の私立幼稚園といふのは大多數これに屬するものであると思ひます計營者は、多くは一個人であつて、大抵、其れを一口の職業として、一家を立て、行くといふのであります。通例どんな人が保母の役を務めて居る

かといふと、多くは、あまり経験に富まない、若い娘さんに依つて營まれて居るといふ有様であります。所が、あまり未経験な若い人では、幼児の本統の扱ひが出来るものでないのは云ふ迄もありませんから（匈牙利）國などでは、滿廿五歳以上でなければ正式の保姆とはいふ規定になつて居ります。小學校であれば正訓導とか正教員とか云ふものに當るやうに、廿五歳以上の人でなければ、正保姆とは云はないのであります。一體に、歐洲の方では、私立幼稚園に若い娘さんが世話をして居るといふのが多いのであります。米國の「シカゴ」などでは、保姆となる人に、餘程高い要求をしまして、立派な課程を踏んだ人でなければ之れに當ることが出来ないことにしたものであります。匈牙利や米國シカゴの例の様に、一個人が經營するのと否とに關らず、幼稚園の世話をする人は、所謂、單に幼児の守りといふ意味で、未経験の人に托する事を嫌らうやうになつて、保姆

は、母親の代理として、母親に劣らぬ、若しくは母親以上の學徳を備へた立派な人でなければならんといふやうに、要求を高めて來る一般の傾向が見られるのであります。

△第三 協會幼稚園 (Vereinskindergarten) 之れは諸種の會が計營して居る幼稚園の事でありまして、フレーベル會とか、若しくは、ベスタロッツチ、フレーベル會だとか、色々の名が付いた會に附屬したもので、一個人の經營でなしに、或る團體の設立にかゝるものであります。之れは、細かに別ければ、三つになると思ひます。其の一つは、市民幼稚園 (Bürgerkindergarten) と云ふ特別の名を付けて居る場合もありますが、つまり、幼稚園の發達は、どちらかと云へば、家庭の世話の屈かない子供、即ち、貧民に近い方の家庭の子供を世話するのが普通で、又、その數も、最も多いのであります。中には、家庭が相當でも、事情によりて、よい幼稚園ならば頼み度いといふ事情の所も

あるわけでありますから、それ等の有福な家庭の子供を一所にして、それを世話する積りで、特に市民幼稚園といふ名を付けてやつて居るのであります。日本のは、どうしたものか、世話しなければならん筈の下の等社會の幼児に對する保育事業が發展せずに、寧ろ、一つの飾りとして、お女中さんやおつきをぞろ／＼連れて、出て行くやうな、よい家庭の子供を收容する幼稚園の方が發達して居りますから、大多數は、かゝる性質のものであらうと考へられるのであります。こゝは、もとより、設立者の如何によりて分類したのでありますから、日本の幼稚園の設立者は、これと同じでない場合もあらうけれども、集める兒童の性質から云へば、この市民幼稚園の幼児と同じものであると考へるのであります。その二は貧民といふ程ではないが、而し、有福ともいへぬ家庭の子供、即ち、中の下位の家庭の子供を集める幼稚園であつて、第三は貧民の子弟を集める幼稚園であります

この第二第三の幼稚園に對しては、總稱して國民幼稚園、(Volkskindergärten) 若しくは協會幼稚園 (Verainskindergärten) と名づけて居ります。同じ、國民幼稚園の内に、極く貧しいものを集めたものと、比較的家庭の事情のよい方の子供を集めたのと二つに別れるわけであります。思ふに、將來、幼稚園の最も必要を感じるのは、この下の等社會の兒童に對する幼稚園で、日本にも、或る幼稚園は、特に貧民の子弟の爲めに設けたといふやうな事も伺つて居りますので、こゝいふのこそ、時勢の進運に伴つて、益々獎勵も擴張もする必要があるのであらうと思ひます。大都會若しくは製造工業の盛んなる所等には、大多數の勞働者などがありまして、中には、夫婦共に働くといふのも少なくはありませんが、幼児が手足まとひになつて、思ふやうに働けない、それが爲めに、或は一家の維持が出来ないとか、或は、國家の生産力がそがれるとか云ふ事は、残念な事であります。それが爲

めには、満一歳より三歳に至る位の幼児に對して、
 幼児預り所（托兒所）の必要があり、満三歳以上
 五歳位迄の幼児に對しては、幼稚園が是非なけれ
 ばならぬのであります。

△第四 これは、別に特別な名はありませんが、
 獨逸のザクセン等には、其の著しい例がありま
 す。つまり、工場の所有主などが、自分の方で雇
 ふて居る労働者全體の幼児を保育するために建て
 た様なもので、かの、幾分、營利の傾きある所謂
 私立幼稚園とも異り、又第三に申した協會幼稚園
 とも異つて、多少慈善的に、雇主が労働者の家庭
 の子供の世話をしてやるという様な性質のもので
 あります。ザクセンなどでは、或る大きい幼稚
 園になると千二百人位の幼児を入れて居るのがあ
 りまして、そこには、保姆の数が三十四人、手細
 工の先生（凡て女子）の数が七人、普通の男子の
 教師が三人で、いろいろ牛乳を飲む時とか、眠る
 時とか、云はゞ守りの様なことをする擁護係

（Pfeferin）卅三人と云ふ様な、ザット七十幾人か
 の職員を雇ふて居る様な大仕掛なものであります
 その中に一割以上位の極貧の家庭の子供には、冬
 の間には、食事をも給することになつて居りまし
 て、夏でも、牛乳などは勿論やるのであります。

ねむい子供の爲めには、一二時間位やすませる設
 備も出來て居ります。將來、我國でも、製造業の
 盛なるにつれて、労働者といふ一種の階級が増加
 して來ることは、西洋各國の事實に徴してさくべ
 からざる勢であると思ひます。彼の國では、勞
 働者と云ふ一階級は、殆ど人間と動物との間に位
 するやうに考へられて居りますが、斯うなると、社
 會黨などの起るものにもなるし、又労働者の子供
 でも、將來どんなえらい人に出世が出来るかも知
 れん等で、西洋のやうな労働者と云ふ浮ぶ瀬のな
 い一階級を作することは、好ましくないことであり
 ます。就ては、工場の所有者の如きものが、卒先
 して、その被雇者の爲めに幸福を計り、その子弟

の教育上などに熱心經營するといふ風を作りたいと思ひます。斯かる種類の幼稚園を、漸次増加して行くことが、私の最も希望する所で、而かも、工場の所有者などは、多數の労働者のおかげで、非常な利益を得て居るのでありますから、その幾分をさけば、容易に經營し得らるゝものであると信じます。

△第五 市立幼稚園 (Städtische Kindergärten)

これは獨逸には非常に少いが、シユワイフ、イタリー、ハンガリー、オランダには、随分あります。多くは、幼稚園長が、其の市の視學などであります。これも、段々、市が整頓して來るにつれて、貧弱なる個人經營に依頼せずして、市の費用を以つて、建築も相應な、庭も廣い幼稚園を經營するといふ事は、非常に結構な事であると思ふのであります。

△第六 國立幼稚園 (Staatliche Kindergärten)

これは、我國の女子高等師範附屬の幼稚園の如き

ものが、嚴密な意味に於て、之に當るのであります。が、こゝでいふ國立とは向ふでは公立といふ意味に過ぎませぬ。即ち政府の法令の下に立てたといふものを皆國立と申すのであります。この意味の幼稚園は、獨逸にはありません。オーストリアでは、千八百六十九年に、幼稚園も小學校と同様に、國家の學校系統の中に組み入れる事にしまして、千八百七十二年六月廿二日の文部省令に依つて、其の根本的規定を出して居ります。これによつてオーストリーでは幼稚園といふものが、國の大方針のもとに、小學校や何かと同じく經營するやうになつて參りました。又、シユワイフに於ては、ゲンフ縣が始めをなして、今は殆ど全國が、幼稚園を、小學校に附設することになりました。又、千八百九十四年に於ける英國の小學校令によると、小學校と幼稚園との關係は、從來よりは一層密接になつて參つたのであります。以上申し述べた形勢からして、公立幼稚園といふ

ものも、だん／＼現はれて来て、次第に小學校や中學校と同じ様に、學制系統の中に入り込まうとする勢を呈して參りました。

日本の幼稚園は、只今いくらあるか存じませんが公立幼稚園は、恐らく百四五十ばかり、私立幼稚園は六十位になつて居るだらうと信じます。合計二百有餘の幼稚園は、一寸多いやうでありますけれども、之れを、世界文明國に比しますと、まるで比較にはなりませんので、バリーの如きは、千九百年に、バリー市だけに、百五十九の幼稚園がありました。これ等を見ても、日本の幼稚園の前途は頗る遼遠なものであつて、その根本的の施設案は、我々の大に考究しなければならん問題であらうと思ふのであります。(以下次號)

誠は天の道なり、之を誠にするは人の道なり。誠なるものは勉めずしてあたり、思はずして得、従容として道にあたるは聖人なり。之を誠にするものは善を撰びて固く之を執るものなり。

招かれし家庭のいろ／＼

(フレーベル會總會に於ける講演)

河井道子

私は幼稚園のことは不案内でありまして、幼稚園教育の大切なことは承知して居りますけれども、其方面のことに就ては少しも存じませぬのでございます、此所に題が書いてありますやうに、何かと私が外國で見せて戴きましたからして、其話を申し上げましたならば其中には、さう云ふ事もあつたかと思召すこともあらうかと存じましたのでございます。

丁度一年半程、私は日本を留守に致しましたのでありますが、非常に仕合な境遇に會ひましたのでございます。外國に行つて被入る方は珍しいことではありませぬ、御婦人でも男子の方でも澤山ございますから、誰れが一人外國に行つたからつて珍しいことではございませぬが、唯だ私はあちら

に居ります時分、仕合にもあちらの家庭に親しく這入つたので其間には多少の實驗も致しましたことがございます。従て家庭に關して良い事や面白ことに澤山出會したのでございましたから、それを少しく御話して見やうと存じます。

旅行の裨益は多方面で、色々風景名媚の勝地を尋ね、諸國の習慣風俗などを見ますのも、寔に結構でございます。其故一通り學識あり經驗ある方は、何を御覽になつても、澤山にお話になる所もあらうかと存じます。又無學文盲の人でありますも、旅行に依り實際的の智識、外見上、物質的文明等は見聞し得られるのでございます。

しかしそれは金と機會さへあれば見られるものでありまして旅行の最上の物とは申されません。私は一年半の間、普通の旅舎に泊りましたのは幸にも一週間ばかりでございまして、何日も方々の家庭とか學校とかいふやうな所に泊めて戴きましたのでございますから、これ程旅を致しますのに仕

合なことはないのでございます、米國の有福な某友人は、歐羅巴に三度行つたといふ話を致した砌りに申しますのに、マア貴女は仕合な人間である。何時でも旅行の時は家庭に宿泊するといふて居るが、金の有る者でも見ることの出来ない所を見る私共が行くと、歴史上の有名な所を見ると、芝居見物でもしやうと云ふので、金ばかり澤山使つて見て來るのであるけれども、お前は大層仕合せである諸國の家庭をみるし是位良い事はないと申しましたが、成程さうだと存じました。

子供の教育、子供のみならず國民の品性など、いふことはナカ／＼容易に分るものではございませぬ、日本でも近來、色々の觀光團が參りますのでございしますが、唯だ日本に來て二三月遊んで廻りました所で、チョット勝手が分らぬのと同じことだらうと思ひます。扱て英國の家庭を觀ますと、成程世間で申す通り、一般風俗なり又習慣なりは、今日他の外國に較べますと、奈何にも地味

であるといふことを絶えず思ひます。

御召物など華奢に遊ばすと申しましても亞米利加

に較べると非常に違つて居るものがございます。

殊に女子高等教育になりますと、英國の高等教育

と米國の高等教育とは殆んど其制度が違つて居る

のを見受けましてございますが、其家庭に於きま

しては、夫れ程違はなからうかと存じました。

私が感心致しました英國婦人の二三人を申して

見ませうならば、一人の家柄の婦人は大層日本に

興味を持つて御居になりました日本のことを随

分調べて被入る。面白い事には日本の片假名文字

を研究遊ばして、日本語も獨習で勉強して被入い

ました。二十年程前には、日本に行きたい、日本

の事であつたならば何んでも知りたいと御思ひ遊

して、片假名を勉強遊ばしたのださうです。或

時近處の病院に日本の水夫が大怪我をして這入つ

た來たのださうでございしますが、言葉が分らない、
日本語の出来る者が居ないからして、何うか來て

見て呉れと言つて來た。自分は能く出来ないけれ

ども行つて見やうと云つて行つて見ると、スッカ

リは分りませぬが、昔しイロハをやつたから、夫

れを思出して漸く間に合せた。そんな事で、餘程

日本のことを御心掛けて御居でになつたのです。

ところが一生日本へ行く機會が無かつた。何故無

かつたかと申しますと、叔母様の御世話をして被

入つたのです。叔母様は九十二歳、昨年のことで

すから九十一歳におなりなさる、御妹御が四十二

におなり遊ばして、龔、叔母君は盲人、此二人の

看護をして被入つても少しも不平の色なくニコヤ

かなお方で被入います。それで叔母様は高齢でも

非常に若々しくして被入る。私は大變驚きまし

た。眼が見へないからして絶へず人に新聞雜誌の

類を讀んで貰ひ、或は浮文字で讀書ですから何ん

でも知つて被入る。其適切な智識のお在りなさる

ことには私共が及ない位でございました。で珍ら
しい事や、面白いことは直く叔母さんに御話し遊

ばすから、叔母さんは心を若々しくして被入るの
です。其上、妹御さんは耳が悪いのでありますか
ら、外出なさるとか、世間の事を直接に見聞する
といふことも出来ませんで大抵は家に被入いま
しても、此獻身的な姉君の御蔭で幸福にして著述
物などして居られます、かく此友人は他の爲にし
てをると云ふ様な顔もせず絶えず御老人と妹と近
隣の爲に犠牲になつて働いて被入います。
能く世の中の人が申します。若い者が地方の學校
に行つて教員でもして居ると、東京にても出なけ
れば自分の生涯が埋れるやうに申しますものがご
ざいますが、何所に居つても己が職に忠實なる者
は立派なものである。と此婦人より深く教へられ
ました。

それから何うも英國や米國では大變老人が元氣だ
と思ひました。六十、七十、八十、といふ老人の
方が、奈何にも若々しい、若々しいと云つても扮
装や服装でございませぬで、精神が若々しいので

ございます。一人の友人は今年七十二歳になりま
す。其方は繪畫が好きでございまして、今日でも
國有繪畫陳列館等に行き名繪を寫して居られま
す、一間四方位の油繪を幾枚も畫いたといふこと
でございまして。又旅をして、諸所のスケッチして
來たり、本を讀んだりして居られます。あの通り
英國などは澤山の殖民地を控へた大國でございま
すから、老若男女共に世界の大勢といふことには
ナカ／＼心を用ひて居りまして、絶へずさういふ
方面の書籍を讀んで居りますのには私驚きしまし
た。

もう一人の老人は同じ位の年で、ピアノが如何に
も上手でありました。尤も日本でも琴や月琴など
に堪能な老人もございしますが、其方は、日の暮れ
方になるとピアノで何か弾ひて居る。何々の譜と
いふやうなものを彈ずるといふのはございませ
ぬで、心に思付いた事を愉快に彈ずるのでござい
ます。何時か私が貴方の御彈き遊ばしたのは何の

譜でございますかと問ふと、「暮方の光り」といふ

のだと被仰る。どんな人のお作りですと訊くと、

私の拵へたのだと云つて笑はれました。年齢は

と云へば七十を越して居りますけれども、其通り

若々しく愉快に日を送つて被入います。それから

此老人は家庭以外のことに、非常に御熱心に注

意を遊ばして、例へば英國にございます女子の

選舉權といふやうなことは、それは能く御存知で

あります。私共の驚く程、能く御存じで被入いま

す。

それから私の感服致しましたのは召使などの使ひ

方で、子供衆が食事の給仕を致させた後には必ず

サンキュー、有難うと被仰る。女中に向つてもサ

ンキューと云はなければならぬやうに躰けられて

居ります。靴を取つて貰つてもサンキュー、私は

日本に居りまして、召使に對して有難うなんて、

立派な家庭の子供衆の云はれたことを存じませ

ぬ、少し物が遅くなると怒鳴り付けるやうなのが

多いやうに思ひます。

私は招かれました家庭で一通り見たことを申上

げますので、一般とは申されぬかも存じませぬけ

れども、子供衆が女中などに失禮な言葉でも使ひ

ますと、母親が直ぐは叱りませぬ。部屋に連れて

行つて、「お前のしたことは大變悪いから過つて御

居でなさい」恠んな風に躰けをなさるので、若し

子供さんが「過まらなくてもいい」などと被仰る

と、「私は過らなければいかぬと思ふのだから、お

前がさういふ氣を起すまで部屋に居つたらいい」

と云つたやうな風です。で、子供は仕様がなか

ら過つて來るといふやうになるのでございます。

それから間違があつたら召使ひでも他にでも謝罪

して直ぐ改善しなければならぬ」といつて教訓をす

るのでありますが、私は非常に感服したのでござ

います。

佛蘭西の子供は亞米利加や英國のやうに活潑でな

い所もございますけれども、……活潑といふのは

荒ばれるといふ意味ではございませぬが、……大人びて、まして居る所がございます。私は巴里市外で三週間程子供を教へる學校に居りました。其所の婦人の先生に子供が二人ありまして、一人は九つ一人は七つでありました。九つの方はナカナカまして居る。何かと能く氣が付くのでございます。所謂、日本でおとなしく、行儀がよいと云ふ方の子で、私に向つて佛蘭西語を教へて呉れるといふで、熱心に教へて呉れました。手真似をした、り大きな口を開けたりして教へて呉れましたが、終ひには貴方には佛蘭西語は駄目だなどと先生氣取りにいひながら、随分根氣能くやつたのでございます。亞米利加の子供を見てもこんな事はございませぬ。英吉利の子供を見てもない、私のやうな大人に向つても一生懸命に骨を折つて居るのであります。子供の特長を申しますと、佛蘭西は學校の時間が大變長い、普通の小學校は朝七時半頃から始つて、四時に終ります。子供等は歸

ると直ぐお八つを戴いて（お八つはパン）復習に取掛るのであります、六時頃に晩御餐を仕舞ひまして、それから遊ぶのであります、何をして遊ぶかと申しますと、決してワイ／＼騒いで荒れ廻るやうなことはない、印紙の數を計算でもすると云つた調子で、一般に佛蘭西の教育はかういふ傾がある。子供が大層大人地味で居るやうです。私の話は私の招かれました家庭だけのことで、社會の或階級の中であります、食事の時などは、御爺様や御姥様が話をなさる時でも、子供は行儀よくジツとして黙つて聽いて被入る。何か御話をなさると「今話してはいけない」と云はれる。恁んな風で私等に御話になる時でも「もう話してもよいか」と御聞きになる位でありました。餘程お母さんが子供のことに注意遊ばして被入ります。二軒程恁んな家庭を見受けたのでございます。躰けのよいことには大變に感心致しました。それだから、男でも女でも佛蘭西の上中流社會の人は、交際がよ

く出来るのは子供の時から、チャント行儀作法を教育されて居る結果だと存じました。

瑞西あたりは佛蘭西と違ひまして、私は大學教授の家へ泊りまして家庭へは二三軒程置いて載いたのみであります、某家に四つになる子供と五つになる子供がございましたが大變に面白い、さうして能く馴れ／＼しく怖氣が無くて可愛らしい御座います、何か持つて来て見せるものがあると云つて、暫時掛つて本を持つて参りました。私が日本人であるからといふので、一年前に日本の御土産に繪本を買つたので、それを搜して持つて来たのです。能く氣が付いたではありませんか、親御は何んとも被仰ませぬでしたのに其本を思ひ出しやつと搜がしてそれを私に見せて色々御話をなさる。それから今度は、貴方御話をして下さいといふやうな譯で、大變に面白い氣風でございます。夜になつて、寝る時間が来ると、御母さんが「御休みの時間です」と被仰る。子供衆二人は音も立

てす十五分ばかり経ちますと、寢衣に代へて出て御居でなさつて母上を呼びに下りて来たのです、やがて母と子供が寢間に行つて就床前に神に一日の御禮をいふ習慣があるので、私も呼ばれました。二人の子供衆は跪き、私の事も矢張り祈りの中に入れて祈つて下さいましたが、誠に能く氣の付くには本統に驚いて仕舞いました。それから二人は銘々に異つた寢床に這入つて、何んだか話し聲がするやうでありますが、聴がて靜かに眠られたお様子でした。

亞米利加に参りますと、亞米利加はナカ／＼派手々々しい贅澤だと被仰ます方がありますが、尤も交際場裡に御立ち遊ばす方は別として、其他は別に變つた所もございませぬ。

紐育市に、ヒフス、アベニューと申して一番金持の寄つて居る街があります。其所の近處に幼稚園が出来まして、私の友人も其幼稚園に居りますから、クリスマス少し前に、式をするから見に来

ないかと云つて招がれました。其時斯ういふ話を承りました。幼稚園の教育は實に大切である。教師になる者は、小學校の教師、高等女學校、中學校、高等學校の教師を問はず皆先づ幼稚園の保母の教育を修めし者でなくてはならぬ、それを自覺するやうにしなければならぬとの事でした、それ程幼稚園の教育は皆なに注意されて參つて居ります。幼稚園の保母には大學を終へたものもございします。自分の友人なども斯う云ふ所から幼稚園の保母になつて居るものもございします。扱て招待されし幼稚園で唱歌も遊戲も面白う御座いました。第一興味を興へましたのは子供の拵へた物を親御に送るのでございます。其贈物には寔に感心致しました。小さな紙切に穴を真中に明けたり、紙切を切つて貼付けて本挟みを拵へたりする、それを親御に贈るのでございますが、何しろ自分の子供の拵へたものでございますから、親御は至つて嬉しい、自分が丹誠した松などを、紙

で鉢を拵へて植ゑたりして贈る。金はさう掛けて居りませぬけれども、子供が一生懸命に拵へたものですから、それを受取つた親御にはどの方も眼に泪がおり遊ばす、立派なお金の澤山掛つた品物よりも、自分の子供が拵へたといふのが嬉れしさうです。子供も亦自分の拵へたものを上げるのが喜ばしいといふやうな譯でございします、(子供の時分に依らず厚意よりの送物とする事を教へてなります)

友人にフランクと云ふ五つになる子供がございします、此友人は、玩具が大變好きで、硝子玉や豆人形や蛙やら、世界中から色々の物を集めて居る。私も先年、日本から三つ贈つたことがございしましたが、それがチャント列んで居る。色は黒くなつて垢だらけになつて居りました。フランクは、あの人形を拜借したいと申しますと、お母さんは、快よくどれでも持つて來ていゝ、貸しては上げるが無くしてはいけない、良いの丈け取つて他の物に觸つてはいけないよ」と被仰ますと、自分の好

きな日本の人形だけを持つて参りました。さうして被仰れるのに、子供には信用が大切で、初めから疑ふやうな様子を見せては、どうもいけない、一度借りると必ず元に御返しする、一番大切なものでも、子供が貸せといふと快よく貸してやる、爲に子供も他よりの信用を大切にすることからよいと被仰て居りました。

紐育のウキールストリーと申せば、取引所のある所で非常に忙しい場所でございます、時間の餘裕などは無い人が多うござります。其ウキールストリー街に大きな事務所を持つて被入るお方でございしますが、お子様が父上に十五分ばかり遊んで下さいと被仰つた。それでは一つ私は貴方に書記を頼みたいと何處までも眞面目に被仰る。坊ちやんは何か書く眞似をして待つて御居でになると、大變好く出来た。直ぐタイプライターに取つて呉れと父君が命じになる。早速タイプライターの眞似をなさる、それが出来ると、何處其所の

御主人に渡して御居でと被仰る。子供はそれを見て御使に行く眞似をなさる、御使に行つて御歸りになると、直に何處に行つて來たと御問ひになる。子供は使ひ先をチヨイト忘れたものだから、貴方の行つて來いと被仰つた所に行つて來た」と被仰つた。其時御主人は「先方の返事は」と問ひましたら「すると成功すると被仰いました」と小供が返事したので大笑ひでしたが遊びにまで、こんな風で一生懸命に身を入れられる父君がなさるので。それを見ると寔に羨しいと存じました。もう一つ私の友人の所に、六つになる男と四つの女とか御座います。食事をして遊居る時分嫌な物があると、御母さん嫌ですとか何んとか被仰る、「食堂でさう云ふことを云ふものではありませぬ。嫌ひなものがあつても黙つて御居でなさい」さうすると指を挟んで日本でいふ地踏駄を踏んで、嫌ひです〜マザー何とか被仰る。すると「此部屋に居ることはなませぬ」と云つて隣りの部屋に

御連れられて仕舞ひます、さうすると可憐らしさうに過つて今度は泣き出て「マザー母さん、私は貴女が好きなのです」と云ひますがしかし御母さんはナカ／＼許さない「お前の言ふことは能く分つて居るけれども、言ふ事を聴かなかつたのであるから、一旦お行きなさい」といつたやうな具合です。親の躰はナカ／＼厳しい、「アイラブユー」を叫びながら隣りの部屋に行きますなど其様子が實に可愛らしい。

それからもう一人の友人の家では面白いことがありました。三つになる男の子であります、度々私の部屋に遊びに参ります。「スチーブンさん、男子は婦人の部屋に断わらずに這入つてはいけません」といふと、次からは戸を敲いて入つて被入る。這入つてはいけませんと云つても、色々日本の物がございますから、それを見たいのです。それで時間を決めて來ても良いといふことにすると、ズット前から部屋の外に立つて待つて居る。或日湯

を使ひますのを拜見に行きますと、女中が、昨宵はアイスクリームを御食べにならなかつたが、どうした譯ですか」といふと、「マザーが食べてはいけない」と云つたからだ、と云つて居ましたが、「それ丈けではあるまい」といふと、「大變御湯で泣いて悪い子でしたので、御母さんが今晚はアイスクリームを上げることが出来ない」と云つて下さらなかつた」其時にも思ひましたが、一旦いけませぬと云つた事は、矢張りいかぬと子供が取る。さうは言つたけれども、可哀相であるからなど、なりますと、自然子供は親を馬鹿にするやうになります。さういふ風で子供の中から餘程注意して育て、居ります要點を一寸申上りますと第一敬神の念を持たせて居る事、次には人から物を貰ふのではなく、自分から外の人に物を與へるといふ精神を、家庭に置いてございます事、正直にして偽を惡む精神それから同じ物を言ふにも、良いか悪いかといふことを能く考へさする事、子供の時から斯

う云ふ話は避くべきもの、例へば男の子供が女の子供に髪結び方等の批評をすることなどは避けさせるとか、もう一つは清潔にするといふことを教へて居ります。清潔にするといふと装飾と同じやうに思ひますが、見えを張るのでなくして最も不潔を避けるのです。子供の膝掛けでも前掛けでもナカ／＼綺麗にする。白い所に二つと浸みのあるのをして居る事は相當の家に於て見た事がありませぬ。それから手を綺麗にする。顔を綺麗にする。爪を綺麗にするといふ調子です。男なら頭をブラシで磨るとか、女ならば髪を洗ふ、それから時間を守るといふことが非常にやかましい、小さい頑固な子供でありまして、懐中時計を與へて居りまして、此時が来たら食事とか、遊ぶとか、此時が来たら學校に行くとか時間の習慣を養成して居ります。それから余り召使などは使はない、靴でも本でも成るべく自分でするやうに習はしを付ける。(別して米國に此風が多く見えま

す) 日本などでは子供が靴などを自分で履くと却つて嫌がる親御がありますが、あちらでは成るべく召使などは使はないで、自分でやる。これ等のことはまだ色々数々ございますが、私の見ました家庭の重なるものでありまして、敢て上流といふ譯けでもありません。普通の家庭の事を申上ましたので御座います。斯く遊ぶ時などは親も子供も一緒に遊ぶ、子供の信用を得るといふことに努めて居る。親御は珍らしくはありません。大層聯絡の付かないことを長く申上げましたが、此外にも女子教育のこともございますが、余り時間が遅くなりますから今日はこれで御免を蒙ります。誠に皆様の御静聴を有難う存じます。(速記)

●京坂神聯合保育會 同會は大阪に於て去月十四日盛大なる總會ありて例年の如く來賓の講話、討論、保育資料研究等ありし由、來會者五百名頗る盛況にて東京よりは特に文部省視學官臨場せられたり。

子供の残酷性

文學士 寺 田 精 一

子供には子供に特別な色々な性質があるが、それ等の性質は或は教育の力により、或は彼等を取圍んで居る人々の種々なる影響感化によつて、其社會生活に不必要な、不適當なものは弱められ、または全く却けられ、必要であつて適當なものが、次第に助長せられ、又は益發揮さるゝやうになるのである。自然淘汰の結果色々な生物が、何れも其圍繞界に適應し得るものゝみに限られ、適應しないものは皆滅びてしまつて、若し外界に何等か變化が起つて來ると、その中に生存して居る生物は、何れも之れに適應するやうに務めて居る、けれども不幸にして適應することの出来なかつたものは、次第に勢が衰へて、遂には此世の中から取去られなければならぬ境遇となるのである。子供の時に現はるゝ色々な性質も、自然界に於ける生

物のやうなものであつて、捨て、置いてても或度迄は、其社會に適當する性質が發達するけれども、時には後に至つて恐しい結果に陥つて、罪のない可憐な子供に憂き目を見せなければならぬ性質もある。他の植物などであれば、枯れてしまつたとて、衰へて來たとて之れ丈けのものであるが、人の子供であつては我關せずと平氣で居るわけにはゆかぬ、悲惨な哀れな境遇に至らしめないのは勿論、苟も少しでもかゝる不適當な傾のある性質などは、未だ之れが發達して力強くならぬ前に處置しなければならぬ、一方に於いて人生に必要な性質を助けて行くと共に、此不適當な性質を抑へて行くのが即ち子供の教育である。云ふまでもなく子供の時は何れの性質にせよ、未發達の幼稚な若々しいものであるから、子供の中に矯正するのは最も容易であると共に、若し其道を誤るときには好ましからざる性質を得せしむるのも、極めて容易であることに注意しなければならぬ。吾人が

今述べやうとする残酷性なども、子供の時代によく見らるゝことであつて、望ましくない性質であるから、若し子供にかゝる傾があつたならば、これが矯正には力を盡さなければならぬ。子供に於て見らるゝ残酷性も、これをよく考へて見ると決して單純なものではない、その依つて來るところには色々あつて一概には云へない、であるから子供の養育者はよく其場合に應じ、充分の思慮を以て之れに對しなければならぬ。子供に残酷性として現はるゝ場合は、普通は植物や動物殊に小さな動物に對して起るのであつて、これを捨て、置くと時には思はざるの結果に至ることがある。然らば子供の残酷性は如何にして起るか、其主なるものに就きて見れば、大畧次に擧ぐる數種である。

一。生物と無生物との區別を知らざるが故に起る場合。これは最も小さな子供に於て見らるゝところであつて、生きた物といふことを知らない、

春の暖さに若々しく萌え出でた庭の草花の芽も、蠕き起いて居る蟲も、木の片や土塊と異つたことはない、手あたり次第に茅つたり潰したりして、喜んで居るので、玩具を弄んで居るのと更に變つたことはない、従つて更に悪いことであるとは心づかない、脇から人に邪魔をされ止められた時に、何故に自分の邪魔をするのか、又何故に止められるのか解らない、であるからかゝる場合には、子供に生きた物の説明をしたとて勿論會得するとは、出来ない、そこで成るべく他の玩具とか何かで、注意を他の方へ轉じさせて、自然と一方の遊びを忘れるやうにしなければならぬ。尤も此場合の残酷性は、生き物といふことが解つて來ると共に、自らよくないことであるといふことも解るから、極小さな子供に間、上の如きことがあつたとて、別に驚く必要はない、只此種の行爲が何時までも續かないやうに注意すればよいのである。

二。子供は運動するものに興味を持つて居る。玩具などに於ても子供は動くものが好きである、尤も動くものは人の注意を惹き易いものであるが殊に精神の未だ發達しない、極めて單純な子供には總べて動くものに注意し、これに興味を持つて居る、此動くものに興味のあるといふことから、小さい動物を弄んで楽しんで居る、かくて弄んで居る間には殺したり、傷つけたりすることも、自然と起つて來る問題であつて、此形式から一つの子供の殘酷性が現はるので、これは生物と無生物との區別を知らないやうな子供よりは、稍長した子供に於て見らるゝところであつて、此種のものは時に可成大きくなつたものにも見らるゝことがある。只動くことが面白いのであるから、弄んで居る間に動かなくなつて、子供が泣き出すことなどがある、もはや死んでしまつた蟲を、動くやうにして呉れといふて、人を困らすことも折々あることである。かゝる場合には動くものを弄ん

で遊ぶので、別に可哀相であるとか、蟲が困るであらうかなどいふことには心づかない、幸小蟲を捕へて遊ぶ頃の子供は、年齢も稍長じて居るから充分云ひ聞かして、小さい蟲でも人におもちゃにされてはどんなに難義でどんなに粒くであらうか又思ふやうに遊べないから、どんなに困るであらうかなどと、子供の身に引き比べて教へてやらなければならぬ。

三。他のものに打ち勝ちたい、何でも自分の思ふ儘にしたいといふ、生物の一般に有して居る慾望から、子供の殘酷性の現はるゝ場合がある。尤もかくの如き慾望は、極小さい時より現はれては居るけれども、年齢の次第に長すると共に、此慾望が著しく勢力を得て來て、小規模の生存競争の實現が見らるゝのであつて、同じ友達仲間、に於ても、自分が大將になつて見たい、自分の號令に従はして見たいといふ慾望はあるが、動物に對しては殆んど無上の權力を以て臨み、殊に自分等の力

の及ぶ以内の小さな動物に向つては、恰も専制君主の如き考で自分の自由にしやうとする、數萬の蟻が隊を整へて動いて居ると、何となく皆動かぬやうにして見たい、石や木の片で止めて見ても止まらない、益勢よく進んで来る、今度は水を渡して防いで見る、尙進んで来る、そこで普通の手段では勝てないから、遂に非常手段を以て足で踏んだり、石や木で潰して其大方が散つてしまつたり、動かぬやうになつて初めて満足することが出来る。犬と競争して自分が負けると、今度逢つた時に杖で投つたり石を投げつけて逃げて行くのを見て喜んで居る。動かずに靜かにして居る蛇や鳥などを見ると、走らしたり飛ばしたりして見なくなる、自分の思ふやうに急に動かないと、竿で衝いたり打つたりして、動き出し飛び出したので満足して居る。或は猫などが自分の思ふやうにならぬとて殘酷にし、甲蟲や蛙などを動かぬやうにして喜んで居る。何れにせよ、場合は自分の思

ふやうになれば満足するが、それでないと承知しない、恰も玩具を我意の儘にしやうすると同じである。而してかくの如きは十歳前後の子供に於て時に極端に行はるゝことがある、如何にも自分が小さい動物を思ふまゝにして、鬼ヶ島でも征伐した氣になつて居るやうなことがある、かくて此方面に一種の興味を覺ゆるやうになると、益此性質を助長するに至るから、平常彼等の近くにある人が注意を怠つてはならない。

四。動物を弄んで一種變つた運動をするところに興味を持つて、殘酷性の現はるゝ場合がある動物を普通のまゝにして置いては更に面白くない少し手を加へ異常な動き方をせしめて、それを見るのを何よりの面白きことと思ふて居ることが子供には往々ある。例へて云へば蜥蜴の尾は脆く切れる、其切れた尾は暫くの間は跳返つて動いて居る、其動き方が面白いので蜥蜴を捜しては尾を切ることが、田舎の子供には行はれる。百足蟲は二

つに切るも三つに切るも、切り離れた體の部分
が何れも勝手の方へ進んで行く、其別々に分れ
て行くのを集めては歩ませて樂んで居る。蟻や
蜂などの後足二本を捕へて、機械の眞似として妙
な運動をせしめて喜んで居る、この時に子供の歌
ふ歌もあれば、これが爲めに機械蟲といふ名まで
出来て居る位である。これ等は極小さな子供には
固より行はれないが、稍長じたものには屢見られ
るところである、而してかゝることは自分で考へ
出すといふよりは、寧ろ年上のものから教へられ
て、初めて其惡戯を初める場合が多い、であるか
ら小さな動物に接する機會の比較的に多い田舎な
どに於ては、殊に養育者に此邊の注意が必要であ
る。

五。多少の工夫を加へて動物を弄ぶ場合。既
に多少の工夫を施すといふのであるから、餘りに
小さい子供では出来ない、十歳前後といふ惡戯盛
りの時分に最も多く行はれるのである。例へば蜻

蛉の腹部を中途から切つて、細い草の莖や紙縊な
どを差込んで飛ばしたり。龜の足に石の附けてあ
る糸を結んで、脇から追つて歩ましたり。甲蟲な
どの體へ長い糸を附けて放ち、茂つた木の枝に糸
が絡み附いて、動けば動くだけ益々動けぬやうに
なるのを見て面白がつたり。雞の尾の先へ白い紙
を附けて追ふときは、音がして後に白いものが見
えるから、雞は何處迄も馳せ回つて止まない、そ
れを後から大騒ぎして見て居る如きはそれである
これは大抵の年上の者に教へられてするので、地
方に依つて色々な方法があるので、中には甚だ殘
酷な仕方もあつて、動物を全くの玩物となし、恰
も草木の葉を取つて、色々な形を作つて弄ぶの
と、殆んど撰ぶところはない、而して處に依つて
は、かゝることが一つの子供の遊戲として、更に
怪まれずに普通の事として行はれ居ることがある
勿論かゝる社會の一般の人は、只面白いことゝの
み考へて子供に傳へ、其殘酷なる行爲であること

などには毫も心づかぬ場合も少くないのである。

六。復讐心から子供の残酷性が現れ出づること

がある。此場合には子供は明かに生物を生物として

見て居る、決して土塊や石と同一視して居ない

のである、尤も子供は生きたものも、死んで居る

ものをも、同じやうに考へて居ることは往々ある

無生物にも時には生きたものに對するやうな心持

で居ることがある、例へば自分が倒れて體を痛め

た石などに向つて、罵詈雑言して剩へ石を投げつ

けて初めて満足さるゝことなどは折々見らるゝ事

實であるが却説此復讐心から來るものには又色々

あるが、大別して此の四種あるものと見られる。

(イ)。無生物や草木を害したからとて、復讐的に

動物に暴行を加ふる場合、自分の大切にして居つ

た草花を犬が荒したといふので、これに残酷な行

爲をして自ら慰め、又自分が奇麗に作つて置いた

砂山などを蟻が壊したといふので、蟻といふ蟻を

見當り次第敲き潰すといふ如きである。蟻の場合

の如くに例令自分の物に損害を加へなかつたもの

でも、之れと同じものであれば、何の見境もなく

復讐をするといふ傾向がある。其外に自分には何

等の關係もないが、只草や木が害されて可哀相だ

とて、草や木に同情して、之れを害した蟲などに

復讐することも往々である。

(ロ)。他の動物の復讐をしてやるといふ場合、害

された動物は力が弱くて、到底復讐をすることが

出來ない、そこで同情心から子供が復讐をしてや

るといふのである。例へば家に飼つて置いた雞

を、野犬が來て殺してしまつた、それを見た子供

は直ちに其犬を追つて、思ふ存分讐を取つてやる

とか。又蛇が蛙を呑みかけて居るのを見て、直に

其蛇を石や木で打つて、口から蛙を吐き出さしめ

尙其蛇を殺してしまふなどは此類に屬するもので

ある。かくて此場合に於て見らるゝ子供の暴行は

一面甚だ残酷であるけれども、又他面に於ては美

しい同情の念がほのめいて居る、然れども思慮

の足らぬ子供のことであるから、時に其善良なる心から出でた行爲が、程度を越えて却つて好ましくない結果に至ることがあるから、これ等の點は利用すべきは利用し、矯正すべきは矯正して、益善良な發達を期さなければならぬ。

(一)。自分の害された復讐をなす場合、前に云ふ通りに子供は自分を痛めた石をも怨んで復讐する、顔を突いた木の枝にも復讐をする、足へ登つた蟻や、首筋へ落ちて背中へ匍ひ込んだ甲蟲なども、時々潰したり半殺しにして報いる。殊に多少たりとも自分を害するやうなものであると、現在自分を害したのでもないのに、殺して以て一種の快感を感じるといふのがある、況んや自分を害し傷つけたといふやうな時には、直ちに足で踏んで砂に擦り潰し、土の中へ埋めて尾や足のみを出して置いて喜んで居る。かくの如きことは人の普通の性質から来るのであるが、往々にして子供の傍に附いて居るものが、かゝる行爲を教ゆるこ

とが少くない。

(二)。友達や親しい人が動物に害され、又は侵された時に自分から進んで其復讐をしてやるといふ場合。前に述べた自分の爲めの復讐も、稍年齢の長じたものに於て見られるところであるが、此他人に對する同情から復讐をしてやるのも、稍長じたものでなければ見られない、即ち多少社會上の經驗を得て、他の人との交際をするやうになり、同情心の漸く發達して來る時分に於て、明に見らるるところである。例へば友達を刺した蜂を追つて殺したり、人の頭へ小便をかけた雨蛙を踏み潰し、吠えかゝつて驚した犬に石を投げつけて報いてやるといふが如き場合である。

七。恐怖の念より子供の殘酷性が現れることがある。極小さい子供に於ては、一般に色々な動物を見ても、恐怖の念を起すことは稀である、只動いたり走つたりするのに注意を奪はれて、却つて面白いものだと思つて居る。けれども其時期を経

過する目新しいもので動くものなどには、往々にして恐怖の念を惹き起すことがある、元來人は本來の性質として、大きなものや勇ましい様子を居るものには、近寄らずに成るべく遠ざかりたいといふ念が自然にある、かくて人から教へて貰はなくとも、自ら進んで自己を保護するといふ傾向がある、その一面の現はれとして、子供が小さな動物などに對して、恐怖の念を起すといふことがある。元來人は恐怖の念に駆られる時には、所謂無我夢中の行爲をすることが少くない、幽霊のやうなものを見たとか、不意に人も通らぬ暗闇で、人に嚇された時などには、前後の考もなく殆んど無意識的に立ち振舞ふことが少くない、そのやうに子供の道などで、思ひも寄らぬ動物に出逢つたり、傍目もせずに一生懸命になつて遊んで居る時に、不意に上の木の枝から毛蟲などが落ちて來て、子供を驚かすやうな場合には、固より驚いて逃げるといふこともあるが、男の子などである

と、恐しさの餘りにその動物を傷けたり殺したりすることがある、尤も驚かした復讐といふことも場合に依つては包含されて居るであらうが、他面に於ては恐しいものは成るべく近寄つて見たいといふ妙な好奇心がある、それと共にその恐しいものを多勢掛つていも負してやり退ちてやりたい、かくて恐怖心から時々残酷な行爲を引き起すことがある。

八。厭惡心から子供の残酷性の起る場合がある
見苦しいものは誰が見ても心地よくはない、形の奇妙なもの、色の醜なものなどは、誰も近寄りたくない。既に動物の方でも保護色といふて、なるべく他の動物の毀害を受けないやうな色に出來て居る動物が少くない、この中には己の四圍と同じやうな色をして、一寸注意を惹かれぬやうなものがある、又中には如何にも毒々しくて、一見悚然とするやうなものがある、殊にかの爬虫類などには此種のものが多い、蜥蜴、守宮、蛇などは大抵

の人が見て心持がよくない、此見苦しい心持がよくないといふところから、これ等のものをむぎ／＼と潰したり殺したり、土へ埋めたり水へ沈めなければ安心が出来ない、氣がすまないといふことがある、これは強に子供のみに限らないけれども之れが子供に於ては遊戯的に最も露骨に現はれるのである。

九。他の子供のして居るのを模倣して、残酷性の起ることが又少くない。普通にいはるゝ如くに子供は極めて感受性が強く、暗示に感ずることが容易であつて、他人の行爲を模倣するといふ傾向が殊の外に著しく見られる。その爲めに善いことをも模倣して覺えるが、悪いことをも模倣することが甚だ多い、本來快活な元氣の盛にある子供などに於ては、眞面目な善いことよりも、悪戯なことの方が受けがよい。従つて愛らしい草木の花や芽も、小さい力ない動物などでも、只人のするところを模倣して自分には何等の動機（どうき）のなかつた

のに、撈つたり殺したりする場合が屢ある、然し初にはかくの如く無意味に行つたのが、遂にそれに興味を覺えて來て、今度は自ら進んで行つて人をも誘惑するに至ることが常である。かくの如く子供には模倣といふことが、著しく力強く働いて居るから、子供の惡しき性質の遊びには、余程他より注意をしてやらなければならぬ。殊に動物を害してはよくない、生き物を苦しめてはよくないといふ考の附かない時分には、お友達（ともだち）のして居ることを見て、只玩具や小石などを弄ぶのと、少しも變らないやうな氣になつて、残酷な行爲を初めることが小さい子供には多いのだから、物事の稍解（さうかい）さるゝに至るまでは、一しほの心遣（こころづか）ひが必要である。

十。自分の勇氣を示したいといふ慾望から、残酷性の起ることが稍年齢（せいねん）の長じた惡戯盛りの子供には屢見（しうけん）受けられる。人は蛇（へび）を恐しく思ふけれども自分は少しも恐くはない、此通りだと得意にな

つて蛇の頭を石で打碎き、或は守宮や墓など何でもない、下駄で踏んでしまへばそれ切りだなどと云ひながら残酷なことをなし、或は自分は今蛇を幾匹殺したから偉いだらうなど、得々としてお友達などに語つて居るのがある。これ等も若し此儘の考で發達して、残酷なことをするのが、勇氣があつて偉いのだといふやうになると、時には成長した後には於て思はざる誤に陥らぬとも限らないから特に心を用ゆべきである。元來亂暴な粗暴な性質の子供は、間、かくの如き考を持つて居ることがあるので、固より亂暴や粗暴は残酷性とは同じ物ではないが、稍もするとこれに傾き易い場合があるのである。

以上は子供の残酷性の起る場合を概略述べたに過ぎないが、茲に注意すべきはこれ等の一若しくは數個の場合から、力弱き生物に對して残酷なことをすることを覚え、これに興味を持つて遂には習癖となることである。かくの如き習癖は主に下等

な動物に對して起るのであるから、別に兎や角い云はなくてもよいやうであるが、實際はかくの如き習癖が身體の成長と共に、次第に大きな動物に對して残酷なことをしても、さしたる哀憐の情も起らず平氣で居らるゝやうになり、終には人に對しても残酷な行爲を敢てするに至るのである、下等な動物に哀憐の情のあるやうな人は、通則として人にも優しい心立のあるものである、人に向つて同情のないやうな人は、動物に向つても思遣りのないのが普通である。

次に向一つ注意すべきことは、かゝる子供の残酷性の如きことが、一種の競争に依つて益強められ益其範圍の廣めらるゝといふことである。人が蟻を五匹潰したと云へば、自分はそれよりも多く潰して見たい、人が甲蟲などを二つ捕へて糸に縛りつけて居ると、自分はもつと澤山を捕へて見たい人が蚯蚓を殺したといへば、自分は蛇を殺して見せてやりたい、といふが如き競争心が此場合にも

行はれる、かくて次第に残酷性の發展するやうなことがあつてはならないのである。

或人は子供の殘酷性は生れながらにあるもので、別に説明の限りではない、現に人類の未開の状態にある野蠻人などは、日常色々な殘酷なことをして居る、人を殺して其肉を食ひ、多數集れる真中に於て獸物を屠つて、其肉を片端から切取り、其流れ出づる血を啜りながら、歌を歌つて喜んで居るが如きは殘酷な極みである、文明人の子供が生物に對して殘酷なことをするのは、恰も知識や經驗が發達しなくて、野蠻時代にあると同じであるからだといふて居る。此説の眞否はさて置いて、子供に殘酷な性質の現はる、といふことは事實である、それには少くも上述したやうな色々な場合が大に力をなして居ること、思ふのである、従つて子供の養育者は其場合に應じて、適當なる處置を採ることに務めなければならぬ。

最後に附言して置きたいのは、都會の子供と田舎

の子供とに於て、此殘酷性が色々異つた條件に支配されて居ることである。一面から見れば都會の子供は田舎の子供のやうに、小さな蟲とか其他の動物に接する場合が少いから、従つて今云ふところの殘酷性の起るべき場合も多くないものと見られるが、又他面から考ふれば田舎の子供は都會の子供よりも、所謂自然に接近する機会が多く、色々な生き物に馴れ親しむといふことの自ら起ると共に、家畜等の爲めに動物に對する一種熱味ある人として最も望ましい美しい心情の、我知らずに涵養さるゝ場合に富んで居るものと見なければならぬ。加ふるに都會殊に大都會の子供は、田園生活を楽しめる邊陲の子供に比して、市街に於て人に追はれ車に追はれ、伸びた寛やかな性質の自然と亡せ行くと共に、市街地に於ける子供の常として、其四圍の事物に依つて頻繁に刺激され、従つて注意の散慢を來たすことの往々にして有り勝ちなるは、都會に於ける子供の教育者は充分の注意と顧慮とを以てしなければならぬ點である。

米國幼稚園教育の現状

石原きく子

石原きく子氏は米國に於て専ら幼稚園教育のことを研究せられ最近歸朝せられた方であります。早速有益な新らしいお話をいろ／＼伺ひました。(編者)

△保姆傳習所

米國の幼稚園教育に就きまして、先づ第一に擧げなければなりません事は、保姆はすべて大學卒業生であると云ふ事でございます。保姆になる目的で大學に學ぶ人は、大學の課程を二ケ年修業しました後、保姆傳習所に入つて、二ケ年幼稚園教育の研究を積むので、そして、大學卒業と同様の號を授けられるのでございます。只今米國で一般に、「保姆ばかりでなく、小學教員であれ何人であれ、すべて婦人は一度保姆傳習所に入つて、一ケ年若くは二ケ年學ぶ必要がある」と申されて居ります程、保姆傳習所を重じ、幼稚園教育を重じて居る

のでございます。

此の傳習所はシカゴだけでも七ヶ所ございます。各大學には大抵附屬になつて居ります。私はシンシナタ州の大學附屬傳習所に居りましたが、此所は現大統領タフト氏の母堂が立てられましたので其の後大學附屬となつたのでございます。

△萬國幼稚園保姆聯合會

萬國幼稚園保姆聯合會は、基督教主義を以て成立つて居ります。世界各國の幼稚園聯合機關で、現會長はコロンビア大學附屬保姆傳習所長ベテールと申す婦人でございます。毎年米國各地でその大會を開かれまして、そこへは諸所の園長、傳習所長等が出席します。世界各地からも代表者が出まして。幼稚園教育に就て様々の説を申出します。何れもどうしたらば幼稚園教育を最もよく改善し、進歩させて行く事が出来るかと云ふ事に就て熱心に自分の信ずる所を申すのでございます。

ら、時には議論がまち／＼になつて、盛な討論を致しますが、兎に角様々な説を参酌して決議をされますと、直様それを採用して實地に行つて見ます。新しい事を用ひて行く事の早いのは、誠に驚く程でございませう。此の會の報告は年々可成大部のものが出来まして、幼稚園に従事する者にとつて誠に有益な指導を與へられるのでございませう。私は昨年四月パファローで開かれまして大會に出席致しました。出席者は五百人以上もありまして私は日本からとして参りましたのでございませう。土耳古、印度、濠州邊からわ／＼出席者がございまして。幼稚園に従事する人々の外に體育に關して醫師も出席致しました。此の時に問題となつた説は次のやうなものでした。

○お伽噺は餘り多く用ひてはならぬ、殊に滑稽に當んだ物語を多く兒童に聞かせる事はよくない、兒童は元來滑稽なことを喜ぶものである、其の上にお伽噺に迄多くそれを加へる時は、兒童を剽輕

にさせ、輕浮な性質に傾かせる恐れがある。

○從來幼稚園の遊戲は身體の一部の運動をさせる遊戲が多すぎた、全身の運動をさせるものをもつと加へなければならぬ。又例へば汽車の眞似と云ふやうな、眞似の遊戲はよくない。なるべく兒童自身で遊ぶ遊戲をさせなければならぬ。斯様な説は大會後、早速實行されて居りました序に申しますが、此の會の日本支部は、毎年輕井澤に開かれまして、其の報告も出て居ります。

△現今の問題及び盛に行はれて居る事

幼稚園教育の大體の方針には定まつたものがあるのでございませうが、それを土地の風俗、習慣、氣候等に就て夫れ／＼斟酌しなければなりませんから、細かい所になりますと、雑多な議論が起ります。例へば米國の東部と西部とでは、常に相反した説を主張して居ります。其の一つを申せば、東

部では恩物の小さいのは児童がそれを取扱ふ上に、眼や、手指を刺激し、勞らせる恐れがあるから、すべて恩物は從來の形の二倍の大きさにして児童に觀よく、持ちよくさせるといふ説でございしますが、西部はそれを極端に走つた説と評して居ります。

何處の幼稚園でも只今行はれて居りますことは自然界を紹介する事でございませう。児童を自然に親しませる爲めに、度々戶外に連れて參るのでございしますが、それはお辨當を持つて遠足と云ふやうなことでなく、近所の公園等で遊ばせて、鳥の唱ふのや、花の咲くのや、すべて自然の物象を聞かせ、觀させ、其の間に此の花はなぜ太陽に向つて咲くとか、鳥の巢がこんな樹の枝にあるとか云ふことを觀せます。又木の葉を拾つて來ては紙に貼ること等も致させます。幼稚園には必ず畑がありまして、春になると、児童自ら鍬をとつて土を掘り、種子を蒔き、草花を養ひ育てます。児童は

三二
毎朝幼稚園が始まる前に水を灌ぎ、手入をするのでございします。

△米國の幼稚園教育の長所

フレーベル氏が曾て云はれました言葉に、「幼稚園教育は基督教を土臺とする事に由て完全に行はれるのである此の點に就て米國は幼稚園教育に最も適して居る」と云ふ事がありました。今日に於きましても種々なる點から米國は幼稚園教育に最も適して居り、又進歩して居ると申さねばなりませんまいと存じます。殊に幼稚園教育と申すものが社會に認められ、重ぜられて居る事は、前に申しました通り保母は大學卒業である一事に由つても證されます。米國で觀まして特に感服致しました事を二つ三つ申します。

第一 宗教が教育の根本になつて居る事
児童の思想の根本に宗教がありますから、幼稚園に在ても、児童は只先生を怖れるのではなく、先

生と共に怖れなければならぬ神様を怖れ敬ふのでありますから、先生が居りながら悪い事をしないのでなくて、神様に對して自分は偽りをしないと云ふ信念があるのでございます。それ故幼稚園で自由に遊び、戯れて居ましても、無暗に不規律になるのではなく、極めて開放された、自由な間に、統一があつて、誠に觀て居りましても心地よいのでございます。

第二 子供になつて遊ぶ保姆

幼稚園の先生は、蛙になつたり、鳥になつたり眞に無邪氣な心になつて、子供達と同じやうに遊びます。それ故子供の方が遠慮したり、耻しがつたりする事なく、活氣に充ちた、楽しい毎日を幼稚園に過すのでございます。

第三 幼稚園と小學と家庭との連絡

幼稚園では常に小學校と、家庭との間の連絡を計つて居ります。又園児の母親達の間に母の會が組織されて居りまして、盛に活動して居ります。幼

稚園では時々母達を招いて實況を參觀させ、母親の意見等を聞きます。母の會は一月に一回位開かれ、何れも育児、家庭教育に就ての經驗を話したつたり、又兒童に關する裁縫や、料理の講習をしたり致します。

又母の會は其の外にも働きを致します。例へば町の辻々に一丁四方位の土地を求めて、樹でも植ゑたりして、子供等の共同遊び場を作つたり致します。或る町などは遊び場所も、運動具も殆んど整つて居りますから、大學の設備費を寄附する等と云ふ事も聞きました。これ等は經濟の豊かな社會で行はれる事でございますが、貧民の爲めには又其の設備がございします。

第三 貧兒預所

これは勞働者の子供など、両親共毎日働らきに出ます間預つて置くのでございます。これには幼稚園の年齢に達しない以前の兒童をも預ります。私は傳習所を出て貧民幼稚園を手傳ひました。

此處には伊太利人、獨逸人、其の他の移民の子供や、黒人の子供が居ります。汚ない子供等で、毎朝先づ垢にまみれた顔を洗つて、髪を結つてやるのでございます。傳習所を卒業しますと、是非一度は貧民幼稚園に汚ない子供等の面倒を見てやる其の辛抱が出来なければ、保母の資格はないものと申されて居るのでございます。(文責記者)

家庭叢話

光 藤 ふ で

○生母は生兒を直接教育するが尊き天職なる事

今更事新しう申すまでも御座いませぬ、我が兒を我が手で育てるのは誰れも承知いたして居る事で御座います、社會の事は段々複雑になつて來まして、當然の道理と知りつゝも其れを行ふ事が出來ない場合は澤山ありまして、生存競争が一日と盛りになりますにつれ、母となりても、我が家

に居て我が子を教養する事が出來ない場合も出來て來ます、即ち夫婦共稼ぎの方などは好適例で、或は新聞社に、或は學校に、或は會社に、纖弱き女の身を以て男六尺の男子と競争し、或は大男を使役さるゝ敏腕を振はれる人も御座いませう、女子教育の進歩と見ればさも解決も下されますが、之が果たして社會の慶すべき現象か否かは容易に判斷を下す事が出來ません、出來ませんが星移り年變る世の變遷亦如何ともする事が出來ませんが、私は生母が生兒を養育する責務を負ふといふ事は、萬古より將來如何に世が變つても、變る事のない事と信じます、又變るべきものではないと存じます、若し昔時の大名豪家の如く生めば之を乳母に渡すといふ如きは、實に變則な仕方、天然ではあるまいと存じます、現時でも或は金あるにまかせ、之れが面倒を見るを厭ふて、人に養育させる人もありますが等は皆母としての大任を盡す事の出來ない不具同様の人として差支なからう

と存じます、又良人を助けて少しでも生活の資を得る方が經濟も豊で、一家の人が喜ぶといふ様な考で、我が愛兒を人に托して自らは公共の事に身を委ねらるゝ方もありませう、或は下流の階級では、工賃を得ん爲めにと子を人手に預けるもありませうが、之は比較的少ないでしよう、なせならば我が一日汲々として得る所は極少額で、人手に預けなどしては差引得る所は少い爲め、又上流の奥様が乳母等に預けらるゝ昔の風は餘程廢れて、段々自己の手で育てらるゝ傾向を以て來ましたのは、確かに教育の進歩と申して宜しいでしょう、只中流以下にありて中流或は中流以上の生活を營まん爲めに、可惜黄金にも玉にも換へがたき子寶を人に預けて、何物を以ても購ふ事の出来ない親子のうるはしい愛情をなげうたるゝは、惡く申さば物質の慾望にかられて、真正にして、しかも何物を以ても買ひ得ざる尊き愛情を犠牲にする自然に反したる行爲と見ても差支はあるまいと存

じます、已に子の無き時より或は學校に、或は會社に職を奉じて種々の情實やら、義理などが出來て、今子が生れしとて、すぐに退きがたい場合もありませう、一年や二年ならばまだしも十年も十幾年も其の校にありて、我が家庭は殆んが鴉がねぐらを求めて歸る位な緣故に深い學校で、土地の人からは望を囑され居るといふのに、今我が兒が生れしとて、すぐに退いて家庭のみに蟄居するのは、おもしろくないなど、思ふ人もありませう、様々なる世に、色々なる考はありませうが、一方我が身にも換へがたい愛子の生れた上は、如何なる地位も、如何なる名望も、如何なる抱負も皆潔く捨て、只此の愛兒を鞠育し得らるゝ家庭の賢母となるべきであります、荏髯久しきにわたりて、産後の身を以て、社會の爲め、公共の爲、専心盡力したとて、どれ丈の成績があがらませうか、願れば我が愛兒は人手に育てられて、生長はして居りまして、其の心母親の恩愛に浴するの機少く、

甚しきは其の心身の發育を妨害されつゝある事

さへ珍らしくないではありませんか、この眞の母子の愛情の糸の濃かき、あたりまへといへば、あたりまへで御座いますが、實に一種靈妙不可思議な味があると私は信じます、世の中の諺に馬鹿な子ほど可愛いと申しますが實に此の愛情は他のあらゆるすべての愛情と趣を異にしておる様に思はれます、接すれば接する丈愛情の度は深く濃く見れば見るほど可愛は増すばかり、如何なる強き力も此の愛情を割く事は出来ないであります、世の多く我が兒を誤るのは此の愛に溺れた結果も澤山ある事であらうと思ひます、そこで我が兒は他人に育てさすると却て好結果を得る事が出来るとの愚論さへ出て来るのでありますが、滅相もない事として、眞の愛情のない他人に預けて、立派な成績を擧げる事が出来ませう、なせならば、申すまでもなく、眞の愛情がないからであります、眞の愛情のない他人に預けて、立派な成績が

上ると思ふのは間違で御座います、よし如何により高い教育眼のある人でも、この外部より味ひ知る事の出来ない愛の糸、この尊き美しきえにしになくて、どうして愛兒の命にかへて、我が一命を召され、この堅い決心が出来ませう、愛兒の危きを見ては、我が一身を捨てゝもと耐る心のあらばこそ、平日とても老の其の身を忘れて愛兒の爲に浮苦勞するものではありませんか、此の心がなくして、乾燥した、薄い愛情の他人が如何に教育眼を有して居ても人の子を預りて、立派な成績が擧げ得らるゝものですか、御覽なさい、身を切るばかりの寒夜嬰兒が便を訴へて泣くの時、ぬれては身體を傷はんと飛び起きて其の用を足すのは、血を分けし父にしても、已に苦痛の色があるではありませんか、況してや、生さぬ中に於ておやで、眞の愛情のない人の中々出来る仕事ではないのであります、それでも其の子を預りて我が懷に育てる責任を負へば、何でもないとはいふものゝ、之

れは理窟でありまして、實際感情上に於て、眞の母親と差のある事は勿論であります、又子供がいづも保育者の氣に入る様にばかりすればよろしいが、時には無頓着なる子供の事、いかなる事をなし、如何なる事を言ひて、保育者母親の氣に逆ふ様な事があるかも知れませんが、眞の母親ならば如何なる事がありまして其の愛情に何等の變りもありませんが、根が他人の保育者内心如何なる感じが起るかも知れない事は出来ません、いづれの點より見ましても我が愛兒を他の人に委ねる理はありません、この慈み深い限りない愛を持てる母親が教育眼を高うすべく、日にとめて、我が兒の前途を樂むべきであります、我が身は時勢の流行を追ふて、輕衣を着輕車をかつて、社會公共の事に手腕を振ひ、入つては下女下男に冊づかれ、一方の輿望を双肩に擔ひ、意氣揚々として、心竊に、其の働きのあるを誇るゝの時、金にも玉にも換へがたいとし可愛の幼子が、他人の手

で如何なる發育を遂げつゝあるかを思はるゝ時に果して如何の感じが泛ぶでせうか、昔からばあさん子は、三文易いとか、已に血統の連る祖母でさへ、充分な教育は出来ないのに、之を赤の他人、教育あるものならば兎も角、無智無教育なる下婢等に托して、如何に多くの俸録を得て、花々しい生活に浮身をやつしても、其の損失は如何で御座いませうか、況や手腕なき母様をやで、一體なべの有様を申しますれば、學校等に出て働くのは、女子としては華々しい生活で御座います、内にあつて千遍一律の事をくり返すのは質素な仕事で御座います、丁度前者は爛熳と咲きはこれる櫻花にもたとへられませう、後者は冬の山茶花にも比べられませう、虚榮強い女子の前者を取りて後者を退くるは止を得ないとは申せ、實際變則なやり方と存じます、子のない中は兎も角、櫻と見らるゝも宜しからんが、已に離る事の出来ない嬰兒を持ちては、山茶花の冬に咲ける趣を實現して、如何

に人目はひかずとも、見すばらしくとも、家庭に入つて其の王となり、専心家事を治め、子女を教養すべきものであります、我が一身は我が身の勝手と理窟をつければ、ドンナ理窟でもつきますが、實際我が一身は此の一塊肉は、祖先の血を受けて生れ出で、又之を將來に傳ふべきものである事を思ひますれば、其の將來の子孫の祝福を圖る爲め、其の繁榮を願ふ爲め、自己の抱負も、地位も、名譽も、犠牲にして之に盡すといふのは、一步進んだ考ではありますまいか、どうしても我が身で生みし程の子ならば、我が手で育てる重い責任があります、其の責任を盡されないのは、眞の母様ではありません、立派な母様とは申されません、或は自己の働ある爲めに勝手に預けられるのは、尊い何物でも求める事の出来ない立派な愛の糸を以て、物質にかへらるゝので實に惜しみて余ある事と存じます。

保姆のすゝめ

双葉幼稚園 後藤 りん

三八

○幼児を保育するにも終始勸語の御主旨を忘れざる様心懸くべきこと

○幼児を保育するには、なるべく、天真爛漫なる美情を、そこなはざるやう

○幼児をとり扱ふには、出来る限り、家庭的が宜しい

○幼稚園の目的は幼児の心身を圓滿に發育して且つ又善良なる習慣を得せしめると云うことを忘れぬやう

○習慣は第二の天性と云つて、將來の能力及幸福の基礎、幼児にとつては實に大切でありますから正直、獨立、忍耐、服従、規律、秩序等は時宜につれて知らず識らずのうちに程よく養はれたきもの

○よく、幼児の個性を觀察して心身の圓滿並に

○行に發達せしめよ

○幼児をとり扱ふには一種云ふべからざる呼吸あり、したしく幼児と同遊して此呼吸をのみこむこと

○(幼児をして幼児たらしめよ)の古言をよく味ふべし

○幼児の惡習慣をためんとならば先づ己の品性より正しくして後にせよ

○愛と眞面目と周到なる注意とにて美德を養へと(美德)

○無意識のうちに善惡共に感化するものであるから大に氣をつけよ

○幼児をして、吾が手足の如く、活動させやうと思ふたならなるべく、命令を下す如き態度をとらず、他人をして、吾が意志を彼の意志であるやうに感せしめよ、(例へば一玩具をかた附けやうではありませんかと云ふやうに)(美德)

○無法のとり扱ひは反抗心を起して、返ていけない

○正當の權利は充分に主張してやらないと卑屈の人物をつくるやうになる(美德)

○「ロツク」曰く善と惡と賞と罰とは道理を具有する動物に對する唯一の動機である、然れども、通例の人は其取捨を誤るが故に害となると、實に幼児保育の任に當る人々は此處の呼吸を呑み込むべきこと

○其惡を憎みて、其人を憎まざる、主義を採られなきこと、通例誰でも其惡を憎むのあまり、其人も憎みたがるものである、さうなると其人をして、益々邪道に陥らしむる傾きがあるから、此點は保姆ばかりではありません誰でも大に注意すべき點であります

○大抵幼稚園の保姆たちは手技の方に力を入れられますが、これは第二位において、初めは成るべく自由に遊ばして先づ服従とか規律とか云ふ方を先きに仕込むが宜しい、但し壓制は大々的

の禁物

○朝夕、着實に仕事を人でも、觀察推理をしない人は、文明と共に進歩して、大に活動することが出来ない(美德)

○保母ばかりではありませんが、成るべく、識見を博くしておきたい

○右よりもより大事なこととは品性を重んじられた

○幼兒をして、どの保母にでも服従するやうに、保母同士自重して威厳を落さぬやうに終始心懸くべきこと

○總て精神上的の教育は兒童の習癖と正反對に指導すると、八分は成功するやうであります、が、これは保母其人の技量にもより(又世間の人と反對の方法をとれとは(美德)のうちにもあつた

○幼稚園は、積木や、板排べを、教へるのではない、是は保育其もの、方便につかうのだから、

其積りで、やつてもらひたい

○保母に限らず、教師は凡て生徒の友になれど云ふは、私の終始口にする説なのです、何んでも、自分が受け持った、生徒の年齢相當な、考へを以て、其生徒の友になれと、云ふのです、これが出来れば教授法の訓練法のと六ヶ敷ことはいらぬ、つまりこれが心理であるのです、これが解決が出来れば實に良師であると思ふ、友たることを得て次に生徒の模範たるべき良友となるのです、既に、良友たる事が出来得れば、良師たることは、難からずと云ふのであります

○幼兒はなるべく室内の遊戲よりも、より多く戸外にて遊ばせるやうに心掛けられたし、出来得るなれば、成るべく、屢々郊外に連れ出して、自然界に對する、趣味を、高尚に導きたきもの

○保母は常に幼兒の顔面及坐作、進退に就て注意ありたし、一體幼兒が活潑に活動なし居る時は、

あまり心配することはありませぬけれども、片隅に凭りかかり、何事も爲さず、沈んで鬱ぎ居るやうな子供は、却て、監督を怠つてはなりません、斯の如き兒は必ず身體に異狀があるので、神經質の者とか、病氣の潜伏期とか、必ず常態でないものである、そこで活潑に撥ね廻はる、幼兒の監督は誰も注意をするのですが、この静におとなしい、方は、つい監督を怠たる、傾きがある、これは能く注意をして貰ひたい、又、人目を離れて遊ぶ子供には、却て陰險なるが、間々あるのであります

○又食事の際にも能く一人／＼に就て十分の注意をして貰ひたい、不行儀に喰べるもの、よく噛み碎かぬもの、食事を急ぐもの、ご飯や、菜を、きたなく、喰べるもの、喰べこぼすもの、又ご飯なり菜なり殊更喰べ残すもの、或は全くきらひなのであるか、食が進まぬのであるか、横着なのであるかを、よく／＼觀察注意して徐々に

矯正して貰ひたい、茶碗、辨當、箸の始末等、悪い相當に惡習慣のつかぬやう是れ亦注意をして貰ひたい

○又幼兒が随分汚ないことを平氣で遣つてゐる、それを保姆が見て知つて居ながら、自分が動くのを面倒に思つて洗つてやるでもなく其まゝ部屋に這入つたり、辨當などを、喰べさせる、又手技などでも子供だから、こんな位でも、かまわぬと言つて、歪んだまゝのを、與へてやる、又着物のきせ方でも、子供だからと云て、よい加減に襦袢や、腰巻きの、たぐだまつたまゝ、着せて、やつたり、又食器なども、一寸洗つてやれば、何んでもないものを、其まゝ使ふと云ふつまり、自分の手數をばくくと云ふ所から随分不潔なことや、不親切なことを、遣て居るのを見ることがあるが、私はこれが心から憎むべき、仕業だと思ふ、なせなれば幼稚園の兒童などは、實に天真爛漫な、未だ嘘と云ふことを、

少しも知らぬ、誠に清い神のやうな者で毒を丸めて喰べさせても、すまして喰べると云ふ程、ごく／＼神聖であるのだ、それと知つては、却々良心がとがめて、出来ないものだが、人によつては恬としてやつてゐる、これは保母ばかりではない、婢僕などには却々澤山に見かけることだ、實に／＼罪すべきことであると思ふ

○保母は看護法の一端を心得られたきこと、大抵永く兒童を取り扱つて居ると、病氣、怪我、其他の救急の場合、大害に至らぬやうに、手當をすることが出来ますが、保母其人によつては、時々大に慌てたり、些細なことに大騒ぎをやつたり、大に氣をつけて、取り扱はなければならぬことを、其まゝになし置たり、随分經驗上危険なことがある、斯う云ふ場合に臨むでは、保母はなるべく、慎重の態度を失はなぬやうにありたい、幼兒、精神修養のさまたげにもなりま

すから、それをするには少しく經驗をつまねば

ならぬ

○保母は愛情のあるものでなくても困るが、あまり溺愛する人でも困まる、よく世間の人は、保母は、子を持つたことのある人でなければ、不適當だ、持つたことのない人は、思ひやりがないから、いかぬとか、云ひますが、私は自分の實驗上、矢張、持つても、持たんでも、先天的にこの職が、其人に備つてゐるものが、一位のやうであります

○職業の爲めに保母たるにあらずして、保母たるべき責任あつて、保母となり居ることをわすれてはならぬ

○變事に備ふる、用意を、前以て持ち合せ置くべきこと

○室内に据ゑ置かるゝ火鉢、暖爐等には必ず水を入れたる器をかけ置かれたきこと、衛生上に益

あるのみならず、震火災の豫防ともなります

○何事も實行一致を期し、從て多言を慎まるゝこ

と

○家庭教育の完全は、家内一致せなければ、行はれぬと云ひますが、幼稚園も、保母同士一致して居らなければ、完全な保育は出来ません

○服従の徳を養はんとて、其意義を誤り、壓制に陥つてはいけません、古人も「兒童たる時は父母の従順なる従僕たり其成長に及んでは之が親友たるべし」とこれは保母もよく味はつて貰ひたい

○幼兒、若し、過ちたる時は、吾より其非を言はずに、幼兒自身の衷心から、其非を悟るやう、仕向けられたし（過つて改むるに憚るなからしめよ）

●静岡縣保育會 同會は去る四月二十九日其第五回總會を静岡幼稚園に於て開會し豫て宿題となり居りし研究事項の發表、其他來賓の講説、祝辭並に餘興等あり、頗る盛會なりし由、來年は清水町に於て第六回總會を催ふことに決定せりと云ふ。

●群馬縣保育會設立 從來同縣下の幼稚園は各園孤立の姿なりしが先般有志者相謀りて高崎幼稚園に會合し群馬縣保育會を設立し毎年四月及十月の二回に總會を催ふすに決定せりと云ふ。

子供の自尊心

倉橋惣三

世に最も誤れる教育とて、子供の自尊心を害する教育ほど恐ろしいものはない。折角吾々が子供のために盡すのも、つまりは子供を正しい自立に至らしめ度いが目的である。而して、子供の心の正しい自立といへば、即ち自尊心がその根底にならねばならぬ。若し誤つて此の根底を害せば、いろ／＼の世話も却つて仇になる。

先づ自尊心とは何かといふことから考へる必要がある。自尊心の眞意義が往々誤解せられて居るからである。自尊心とは讀んで字の如く、自ら己を重んずるといふに他ならぬ。併し、茲にすぐ二つの問題が起る。重んずるといふのは如何なることか。自分といふのは如何なることか。此の二つが正しく解せられて居ないと、自尊心が飛んだ間違つたものになる。

自重は自ら重んずるのであるといふ處から、常に陥り易い誤は、度を越へて己を重んずることである。精神病患者の部にはいる誇大妄想とまでゆかないまでも、眞價以上に己を買ひかぶつて、傍から見ると笑ひ出し度くなる様な「自重家」も往々ある。つまり自重の止め度を知らない人達である。世間に斯ういふ「自尊心」があればこそ、自重と謙遜といふ様な當然矛盾する筈のない二つの美德がさも矛盾するらしく人々に危ぶまるゝ様になる。そこで自重は自ら重んずるなりといふ、文字其まゝの解釋を吾々は避け度いと思ふ。そして新らしく次の様に定義して置き度いと思ふ。之れが自重心の一番正しい定義だといふ譯ではないが。之れから考へようとする子供の自尊心の養成法には、少くも都合のよい解釋である。即ち、自重といふことは、己を己の眞價通りに置くことである。自分の眞價といふ線から下へも下げなければ、上にも上げないことである。其の正しい位置に自ら己

を置くことである。自分で自分を、そこに支持することである。此の線から下へ下がつたのはいじけである。卑屈である。自侮である。此の線から上へ上がったのが、急ばりである。傲慢である。己惚れである。線の下が自重でなければ、線の上も眞の自重ではない。但し斯ういふと自重といふことが大層六ヶしいことになる。理論上からは大にハッキリして居るが、實際上には容易のことではない。一世の達人にあらずんば殆んど出来まいといふ説も出るかも知れない。甚だ其の點が無いでもない。併し、こゝに自分の眞位置を線であらはしたのは、いふ迄もなく幾何學的の線ではない。そんなことを言つたら、自分の眞價は空な存在になつて仕舞ふ。此の線といふのは實際上には大分幅員のある線である。上へも下へも多少の融通のつく幅員である。心のことは要するに程度問題である。事實上はそう究極に解せられんでもよいのである。

次に己を重んずるといふ、其の己れとは何をいふのか。茲にいふ「自分」が

(第一)自分の身體でないことは勿論である。自分の身體を重んずるのが自重ならば力士は皆自重家である。

(第二)又自分の身につく衣裳裝飾の様なものを指すのでも勿論ない。處が之れは屢々間違つた考へを吾々に起させる。更つた美服でも着ると何だか自分で自分がゑらく思はれて来る。汚い平常着か何かの時は、人に遇つても尻込みしながら、美服の時は、人を何とも思はんといふ様な態度が起る。一時間前の平常着の時と、美服に更めた後と、自分そのものの眞價に一厘一毫の違ひが起つたのではない。しかもそこに格段の差がある様に他人が思ふのは兎に角く。自分でそんな氣にならぬ。斯ういふのを孔雀的自重と名づける。此のことは心理的にいへば、餘程理屈のある、いはい無理のない顯象なのであるが、倫理的には随分と馬鹿

氣なものである。

(第三)人から認められた自分の評判が眞に自分でないことも勿論である。然し之れも心理的事實としては屢々吾々に起る。假令は若い音樂者が聴衆の前でピアノでも彈ずる。自分では今日は出来のよい方だと自信があつても、聴衆がとんとほめて呉れないと、自ら氣がひけて来る。それに反して、聴衆がお世辭にでも非常に喝采して呉れると、自分では實はそれ程と思つて居なかつたのでも、何だか、今日は餘程らひピヤニストにでもなつた様の氣がする。その前の時と今度と、自分の眞價に於ては大した變りもないのに、他人の賞する賞しないによつて、自重の分銅が急に變つて来る。丁度元來同じ容積の水銀が外氣の温度次第で昇降する様なものである。かういふのを寒暖計的自重と名づける。之れ亦心理的には無理ならぬ顯象であるが倫理的には甚だくだらないものである。孔雀的自重や、寒暖計的自重が何故倫理的に馬鹿

らしい、くだらないものであるかといへば、兩者とも、自分の線の上へ、他のものゝ力によつて、持ち上げられて居るからである。従つて、他のものゝ力次第で、どつかりと下へ落されるからである。孔雀の毛のぬけた時、寒暖計の水銀の氷點下へ縮こんだ時、そういふ時のみすばらしさがあるからである。即ち之等は自重の如く自ら思はれても、實は少しも自分で自分を重んじて居るのではない。

(第四)それから、もう一段ひどいものになると、自分にそれだけの眞價があるのでなく、又他からも敢て持ち上げて呉れるでもないが、たい、ふわ／＼と思ひ上つて居る人々がある。何となく夢みる様に、何だか始終得意げに浮き／＼して、どこがゑらいといふとが他から見ても分らないは勿論、自分自身にも、よく考へると自分のゑらい點とは分らないが、しかし何だかゑらい様な氣がして獨りでいゝ氣になつて居る人達である。斯ういふ

のを風船的自重となづける。極く罪もない、たわいないものであるが、それだけつまらないものであることは言ふまでもない。昇れ／＼天まで昇れで右へ左へ、ふわり／＼と昇つて行くのは、得意氣なものに相違ないが、風船の上昇は空氣より比重が少い爲め、軽い爲めだと聞くと、昇るからとて貴さは少しもない。

斯ういふ風に考へてゆくと、自重らしく見へもし自ら思はれもするものゝ中に、似而非自重が随分少くない。そこで、問題を初めへ歸して、眞の自重の、その自分とは何かといふと、即ち眞我である。その日／＼の相場の變動で上下しない自分である。人こそ知らね、或は人が知らうとも賞めようとも、我れは眞に獨り知る自分である。若し自重の眞髓が此の點に固定して居れば、その人は自ら高ぶらぬと共に、自ら卑めることもない。そこで、今迄は主として、線を上へ越へた誤りの方を考へたから、今度は線を下へ降りた誤りをも吟味

して見なければならぬ。子供の正しい自尊心を養成する爲には、一般論としての正しい自尊心を充分詳かに明かにして置かなければならぬのである。

(第二)自ら己を卑めるには色々其の場合の理由もあるが、第一には病的なものもあるといふことを知らなければならぬ。其の病的にも、先天的の一時期的のがあるが、一口にいへば氣の弱い性質といはれるもの、即ち畏縮性の性癖である。その烈しいのは精神病患者にあつて、前に一寸述べた誇大妄想の反對に、何でも自分をために考へるのである。そう烈しくない處で、こういう傾向は通常の人にも往々ある。又吾々でも一寸した體の疲勞とか衰弱とかで、何故こうだろうと自ら疑はるゝ程意氣地なく、氣のいぢけることがある。その外的原因はいろゝのことから起るが、内的にはつまり神經の一種の衰弱である。自ら勵ましでも勵まし甲斐のないのは氣力のもとと神經が弱

つて居るからである。他から見ても、つたくなる程に思つても、いよげかへつて手のつけられない様なのは、矢張り其人の神經の力が衰へて仕舞つて居るからである。こういうのは心のこと、いふよりは一種の機能的病氣であるから、その方から恢復してゆくより他仕方ない。責めたとして仕方ない。同情すべきのである。

(第二)自卑の最卑しいのは、自利の爲にする自卑である。利益の爲には心の張りもない、我から我を辱めて耻もしない類である。こういうのを生れながらにして皆そうであつたのではあるまいと思ふと、境遇上氣の毒になることも少なくないが、さりとて、そのさもなく、下げ果てた卑しい心根は、非自重の最甚しいものである、之れは多くいふまでもあるまい。

(第三)次には、一寸自重らしく見へて、其の實甚だ自卑の場合が屢々ある。醉漢が夜の町で犬に吠へられた。頻りに喧嘩して居る。犬と人間と喧

嘩して居る。醉漢の心では人間様が犬なんかに加へては、自重心を害するといふのかも知らぬ。併し、犬の相手になつて喧嘩して居る人間様は、犬まで己れを下げて居るのではないか。召使を相手に、ムキに喧嘩する奥様も、幼い子供を相手に、眞赤になつて喧嘩して居る先生も、こんなものに負けては、自重を害すると思つて居るのであらうが、その實そんなもの(其の人の所謂)まで自分を下げて居るのである。

(第四)第三と同じようなことが、殊に周囲の傍觀者に對する體面とかいふ譯で行はるゝことがある。あんな奴を相手する吾輩ではないが、人多勢見て居たから相手にして來たといふ類のこととは、往々にして聞くことである。そしてその傍觀者といふのは何かと聞くと、随分くだらない者達であることがある。つまり「吾輩」は、先づ傍觀者まで自分をさげて、次に相手まで自分をさげて居らるゝのである。喧嘩争ひまでゆかないでも

随分といやにくだらなくゑばつて居る人達は、多くは此の第四の類に屬して居るのである。ゑばつて、實は自ら自分を擧げて居ることを證據だてゝ居るのである。

(第五)第三、第四の様なのは、傍から見て可笑しくこそあれ、まだ罪のない方である。それが極くいやなものになると、自分では自分をゑらいと思ふ心は大にあるけれども、それが其通り、人に認められなかつたり、陽にさつぱりとゑばれない處から、或はいぢけた、ひねくれた自尊心となり。或は嫉みとなり、僻みとなり、妬みとなる。こういふのに限つて、蔭へまはつては他人を罵り、已れを高ふして、それで以て辛ふじて自分を慰めて居る。眞の自重からいへば自ら卑むるも甚しいものである。

そこで、これだけの吟味をして置いて、さて子供を此の誤つた自重から救ふて、正しい自重へ導くにはどうしたらよいか、之れから教育上の實際に移る。(つづく)